

塩崎家文書（日高町津久野）より

日高郡への出稼ぎ漁師たち

江戸時代、紀州の漁師は関東地方や九州など日本各地に盛んに出漁し、新たな漁場を開発したことで有名ですが、逆に、紀州沿岸各地に入漁（出稼ぎ）に来る他国の漁師も多くなりました。原則として、紀州藩は他国漁師の入漁に対してはおおらかな方針でした。

日高郡津久野つくの浦・小浦おうら（現日高郡日高町津久野・小浦）の小さな入江には、江戸時代を通じて阿波国堂ノ浦・北泊きたどまり（現徳島県鳴門市）の釣漁師、和泉国岸和田（現大阪府岸和田市）の手繰網てぐり漁師、摂津国兵庫（現兵庫県神戸市）

の延縄漁師が集団で出稼ぎに来ていました。

三つの漁期が重なる春には、この入江に一〇〇艘・三〇〇人を超える他国漁船・漁師がひしめき合っていたと思われます。津久野浦の庄屋・御口前おくちまえ所しよ（流通税役所）請負を務めた塩崎家の古文書には、他国からの入漁者に関する記録が多く残っています。

阿波国堂ノ浦・北泊の漁師たちについては、『和歌山県立文書館だより第



三九号』で採り上げましたので、詳しくはこちらをご覧ください。

『和歌山県立文書館だより第三九号』は、
御自由にお取りください。

